

医療健康学部 理学療法学科 専門教育分野 TLO : Target and Learning Outcomes

科目区分		授業科目名	科目コード ナンバー	ナンバ リング	配当 年次 学期	科目 種別	単位	1. 科目の目的	2. 科目の到達目標	3. 科目の目指す6つの目標・5つの基礎力と本学のDPで目指す能力等					
								①知識・理解	②思考・判断	③関心・意欲	④態度・規律	⑤技能・表現	⑥専門性と実践 力・応用力		
						講義 演習 実習 PBL など		授業科目で何を目的に学修し、どのような内容の理解を狙 いとするか。	授業での教育・学修を通じて学生がどのような学修 成果の達成を目指し、何を到達目標とするか。	幅広い知識・教 養、基礎的学修 力・理解力	思考力・判断 力、課題の発 見・分析・解決 力	汎用的能力向 上、社会への関 心、意欲の向上	自主性・積極 性・やりぬく力、 自己規律の修 得	社会人能力： コミュニケーション、 チームワーク等	専門職として必 要な知識・技 術・応用力・分 析力の修得
人体 の 構 造 と 機 能 及 び 心 身 の 発 達	運動解剖学	M-SFD201	200	2春	講義	1	身体運動を理解するために重要な関節の種類とその構成要素、四肢や体幹の関節運動のメカニズムを学ぶ。さらに生体の組織・機能解剖や生理学的な機構や運動器官が活動するためのエネルギー産生の理論や力学の基礎原理について学ぶ。骨・関節の運動や体幹、上肢、下肢の運動を個々の筋肉の運動と捉え、様々な筋肉の相互作用として捉える視点を養う。身体全体の運動を個々の筋・骨格の運動として分析できる基礎能力を養う。	①身体運動に関連する身体構造と機能を説明できる。 ②身体運動に関連する生体のエネルギー産生のメカニズムを説明できる。 ③力学の基礎を身体運動と関連づけて説明できる。 ④四肢と体幹の主要な関節の構造を説明できる。 ⑤四肢と体幹の主要な関節運動と関連する筋の起始、停止、作用、神経を説明できる。	◎						◎
	運動学	M-SFD101	100	1秋	講義	1	本講義では、人間の運動を細分化し、その基本的なメカニズムに関する知識の修得を目指す。本講義の学修目標は、理学療法の実施に必要な不可欠な知識である四肢や体幹などの関節運動のメカニズム、生体力学の基礎、姿勢制御メカニズム、歩行制御メカニズム、運動の発達、運動の学習について理解し、説明できるようになることとする。	①ヒトの運動を正しく記述できるようになる。 ②生体力学の基礎を理解し、身体運動について説明できるようになる。 ③身体運動に必要な要素を理解し、説明できるようになる。 ④「姿勢」や「歩行」について理解し、説明できるようになる。 ⑤「運動の発達」や「運動の学習」について理解し、説明できるようになる。	◎	○					◎
	運動学実習	M-SFD202	200	2春	講義	1	理学療法をおこなう上で、身体運動の基本メカニズムを理解している必要がある。本実習では、「運動学」の講義で学修した身体運動の基本的なメカニズムについて、実習を通じてその理解を深める。本実習の学修目標は、実験機器(三次元動作解析、動作筋電図、誘発筋電図、重心動揺計、床反力計、筋力測定器等)の計測原理の理解、計測・解析方法の理解、データの解釈の仕方の修得、結果報告の方法の修得である。	①徒手筋力計及び等速性筋力測定器を用いた筋力検査の原理を十分に理解し、文章で説明できる。 ②動作筋電図の計測原理を十分に理解し、文章で説明できる。 ③伸張反射の計測原理を十分に理解し、文章で説明できる。 ④姿勢動揺の計測原理を十分に理解し、文章で説明できる。 ⑤各テーマと理学療法としての関連性について、文章で説明できる。 ⑥他者と協同して課題に取り組み発表資料を準備し、聴衆にとって分かりやすいプレゼンテーションを実施することができる。	◎	◎		◎	◎		◎
	運動生理学	M-SFD203	200	2春	講義	1	①運動に対する生体の反応および機能的・構造的適応について理解する。 ②運動を継続するメカニズムについて理解する。	①酸素搬送系を理解し、その規定因子について説明できる。 ②神経系と身体運動との関連について説明できる。 ③筋収縮とエネルギー産生について説明できる。 ④運動による呼吸応答及び心血管応答について説明できる。 ⑤運動における内分泌系、認知機能の役割について説明できる。 ⑥レジスタンストレーニングについて説明できる。 ⑦全身持久力トレーニング、呼吸筋トレーニング、求心性収縮トレーニング、遠心性収縮トレーニングについて説明することができる。	○	○					◎
	解剖学Ⅰ	M-SFD102	100	1春	講義	1	人体の機能や病態を理解するためには、正常な人体の構造をよく理解する必要がある。本講義では、人体を構成する細胞・組織と器官・器官系(外皮系、骨格系、筋系、神経系)の構造に関する知識を習得する。	人体を構成する細胞・組織と器官・器官系(外皮系、骨格系、筋系、神経系)の構造に関して理解した内容を他人に説明できる。	◎	○					◎
	解剖学Ⅱ	M-SFD103	100	1秋	講義	1	人体の機能や病態を理解するためには、正常な人体の構造をよく理解する必要がある。本講義では、人体を構成する器官・器官系(神経系、感覚器系、心臓血管系、内分泌系、リンパ系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系)の構造およびヒトの発生に関する知識を習得する。	人体を構成する器官・器官系(神経系、感覚器系、心臓血管系、内分泌系、リンパ系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系)の構造とヒトの発生に関して理解した内容を他人に説明できる。	◎	○					◎
	解剖学Ⅲ	M-SFD104	100	1秋	講義	1	人体の機能や病態を理解するためには、正常な人体の構造をよく理解する必要がある。本講義では、「解剖学Ⅰ・Ⅱ」で学んだ知識を確認しつつ、また、生理学で学ぶ機能に関する知識を踏まえながら、理学療法を行う上で特に重要な骨格系、筋系、神経系に関するより深い知識を習得し、また各器官系の働きを統合的に理解する。	理学療法を行う上で特に重要な骨格系、筋系、神経系に関するより深い知識と各器官系の働きを統合的に理解した内容を他人に説明できる。	◎	○					◎
	解剖学実習Ⅰ	M-SFD105	100	1春	実習	1	人体の構造を理解するための講義では構造に関する用語や働きを学ぶが、その立体的な構造や位置関係を正確に理解することは容易ではない。本実習では、顕微鏡観察や人体模型に触れることで、構造を詳細に観察する。「解剖学実習Ⅰ」では、細胞、筋系、骨格系の理解を深める。少人数のグループで取り組むことでチーム医療に必要な協調性を養う。	細胞、筋系、骨格系の構造を理解し、これを資料にまとめ、実習成果発表で説明を行うことができる。	◎	○		◎	◎		◎
	解剖学実習Ⅱ	M-SFD106	100	1秋	実習	1	人体の構造を理解するための講義では構造に関する用語や働きを学ぶが、その立体的な構造や位置関係を正確に理解することは容易ではない。本実習では、顕微鏡観察や人体模型に触れることで、構造を詳細に観察する。「解剖学実習Ⅱ」では、筋系、神経系さらに胸腔および腹腔内に位置する器官の理解を深める。少人数のグループで取り組むことでチーム医療に必要な協調性を養う。	筋系、神経系と胸腔および腹腔内に位置する器官の構造を理解し、これを資料にまとめ、実習成果発表で説明を行うことができる。	◎	○		◎	◎		◎
	心身機能発達学	M-SFD107	100	1秋	講義	1	理学療法の対象はあらゆるライフステージの方である。胎児期、乳幼児期、小児期、青年期、成人期、老年期といったライフステージの特徴を学ぶ。	学生は以下の内容を説明できる。 ①人間のライフステージと発達課題 ②胎児・乳児期の発達過程 ③幼児期における発達(運動発達、精神発達、言語発達) ④小児期・青年期における発達 ⑤成人期における発達(身体構造の変化、生理機能の変化、心理・社会的変化) ⑥老年期における発達過程(身体構造の変化、生理機能の変化、心理・社会的変化)	◎	○	○				◎
	生理学Ⅰ	M-SFD108	100	1春	講義	1	疾患及び障害の病態を理解するためには、正常な人体の構造と機能を理解している必要がある。本講義では、生命現象の理解に必須である基本的な分子(核酸・タンパク質・糖・脂質)の構造とそれらの働き、生体膜を介した現象(浸透圧、膜電位・活動電位)の理解から始まり、いくつかの器官系(神経系、筋系、感覚器系)の機能について学ぶ。	人体を構成する基本的な分子(核酸・タンパク質・糖・脂質)の構造とそれらの働きと生体膜を介した現象(膜電位・活動電位)、器官系(神経系、筋系、感覚器系)の機能に関して理解した内容を他人に説明できる。	◎	○					○
	生理学Ⅱ	M-SFD109	100	1秋	講義	1	疾患及び障害の病態を理解するためには、正常な人体の構造と機能を理解している必要がある。本講義では、血液、呼吸器系、泌尿器系、消化器系、循環器系、内分泌系、自律神経と脳神経、免疫系、生殖器系の機能および酸塩基平衡と代謝について学ぶ。	血液、呼吸器系、泌尿器系、消化器系、循環器系、内分泌系、自律神経と脳神経、免疫系、生殖器系の機能および酸塩基平衡と代謝に関して理解した内容を他人に説明できる。	◎	○					○
	生理学実習	M-SFD110	100	1秋	実習	1	疾患及び障害の病態を理解するためには、正常な人体の機能を理解している必要がある。本実習では、人体の機能に関する項目のなかからバイタルサイン、スパイロメーター、反応時間、フリッカー値、筋電図を選び、これらの測定に関して、仮説を立て、実際に測定を行い、得られた結果の解析・考察を行う。結果の解析には簡単な統計学的手法を用い、これを習得する。少人数のグループで取り組むことでチーム医療に必要な協調性を養う。	バイタルサイン、スパイロメーター、反応時間、フリッカー値、筋電図の各項目について行ったことを資料にまとめ、実習成果発表で説明を行い、また統計学的解析結果に基づいた議論を行うことができる。	◎	◎		◎	◎		◎

科目区分		授業科目名	科目コード ナンバー	ナンバ リング	配当 年次 学期	科目 種別	単位	1. 科目の目的	2. 科目の到達目標	3. 科目の目指す6つの目標・5つの基礎力と本学のDPで目指す能力等					
										①知識・理解	②思考・判断	③関心・意欲	④態度・規律	⑤技能・表現	⑥専門性と実践力・応用力
						講義 演習 実習 PBL など				幅広い知識・教養、基礎的学修力・理解力	思考力・判断力、課題の発見・分析・解決力	汎用的能力向上、社会への関心、意欲の向上	自主性・積極性・やりぬく力、自己規律の修得	社会人能力：コミュニケーション、チームワーク等	専門職として必要な知識・技術・応用力・分析力の修得
専門基礎科目	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	医学一般Ⅰ	M-MDC201	200	2春	講義	1	医学の基本として、医学の歴史・生命と医の倫理、疾病の概念と診断、各種、画像検査、病理、疾病の治療を理解し、疾病に対する診断と治療の基礎を学び、医療事故やリスクを認識し、対象者にとって安全な理学療法を保證できる能力を養うことを目標とする。さらに臨床医学の理解を深めるため、各種疾患と障害と薬物療法を理解する。具体的には呼吸器、循環器、内分泌・代謝、消化器、栄養・代謝、血液、感染症などの各疾患に対する病因、検査、治療、薬物療法、予後を学ぶ。とくに、病態像と検査(画像・生理検査)と診断、その基本的な治療について幅広く理解し、理学療法の評価と基本的な治療について学ぶ。具体的には、臨床検査データの読み方に関する知識も学ぶ。	授業での教育・学修を通じて学生がどのような学修成果の達成を目指し、何を到達目標とするか。	◎	○				◎
		医学一般Ⅱ	M-MDC202	200	2秋	講義	1	「医学一般Ⅰ」の基礎知識を基に理学療法の対象となる障害を引き起こす主な疾患の疫学や予後、病因と病態生理、診断と治療について学ぶ。臨床医学の理解を深めるため、各種疾患と障害と薬物療法、外科療法を理解する。具体的には腎・泌尿器、生殖器、免疫・アレルギー疾患、皮膚、熱傷、褥瘡、創傷に関する障害・疾患、腫瘍、廃用症候群、老年症候群、先天異常などの各疾患に対する病因、検査、治療、薬物療法、予後を学ぶ。さらに、出生前後から成長期にみられる主な疾患の病因、病態生理と診断、治療について学ぶ。また特に理学療法に關係する疾患、脳性麻痺、二分脊椎症、染色体異常等が身体成長と運動発達、精神発達等に及ぼす影響、治療、薬物療法、予後を学ぶ。	この授業を学ぶことにより、外科系やリウマチ、先天異常などの領域を中心として、 ①自分が今学んでいることが、医学の広大な領域の中のどの部分を学んでいるのかを理解し、説明できる。 ②これから学ぶ様々な科目の意義と概要を総論的に学ぶことにより、容易にその授業に入っていくことができる。 ③驚くほど多彩で高度な生体の各種機能を理解し、説明できる。 ④各種臓器の疾患における、症候と病態が説明できる。	◎	○				◎
		栄養学	M-MDC203	200	2春	講義	1	健康維持・増進や疾患予防を含めた治療のための栄養に関する知識を学ぶ。	栄養の基礎的知識を得たうえで、健康維持・増進や疾病予防と栄養との関連や各種の疾患の治療の際に必要な栄養管理と理学療法との関連について説明できることとする。	◎	○			○	◎
		画像診断学	M-MDC204	200	2秋	講義	1	画像診断は、疾患の病態生理を可視化する極めて重要な手段である。薬物や放射線治療、手術治療はもとより、理学療法によるリハビリテーション計画を作成する上でも画像診断は欠かせない。画像診断学では、中枢神経疾患、神経内科疾患、循環器・呼吸器疾患等をエックス線、MRI、CT、超音波、血管造影などの映像より解釈する手順を学ぶ。さらに、理学療法士国家試験に出題された画像問題について、解剖学的位置関係と関連付けて学習する。	一般目標：学習目標の優先順位として脳血管・神経変性疾患の部位診断(梗塞・出血・変性部位と機能欠損)と、脊髄・脊椎疾患、骨関節疾患が最も重要となるが、後者は整形外科の授業の中で行われることになっている。したがって本授業では次に胸部疾患(肺炎、腫瘍、COPD)、腹部疾患、消化管・動脈疾患を取り扱う。これらの画像を理解するために重点的に履修できる配慮を行う。 行動目標： ①エックス線撮影、CT撮影、MRI撮影、血管造影の基礎知識を習得し、画像を解釈することができる。 ②部位・疾患ごとに画像診断アプローチを説明することができる。 ③解剖と機能の関連性を説明し、異常部位を指摘することができる。 ④医師など他の医療スタッフと共通の認識を持ち、コミュニケーションを図ることができる。	◎	○	○		◎	◎
		救急救命医学	M-MDC301	300	3春	講義	1	理学療法士の業務上必要な救急救命医学に関しての基礎知識を身につける。	救急医療体制、心肺蘇生法、各症状別応急処置、創傷処置についての知識を理解し、説明できる。	◎		○		○	◎
		公衆衛生学	M-MDC205	200	2春	講義・演習	1	各ライフステージに特有な健康に関する諸問題や疫学統計の基礎について学び、健康に生活するとはどのようなことか、健康に生活することを保障する社会の仕組み等について理解する。	予防医学の役割と意義、疫学統計の基礎について理解し、説明できるようになることとする。それに加えて、統計資料や研究論文を適切に読み解く能力を同時に習得することを目指す。	◎	◎	◎		○	◎
		疾病予防と健康増進	M-MDC302	300	3春	講義	2	発達の各段階における身体的特徴や疾病の特徴、段階間の関連について理解を深め、理学療法士の専門性を活かした疾病予防対策や健康増進方路についての考え方を学ぶ。	①各発達段階の身体的特徴、傷害・疾病の特徴について説明できる。 ②各段階に応じた健康増進、傷害・疾病予防の考え方を説明できる。	◎	○	○			◎
		神経内科学Ⅰ	M-MDC206	200	2春	講義	1	理学療法をおこなう上で、神経内科疾患、中枢神経、末梢神経・筋の障害を引き起こす主な疾患の病因、病態生理、症候、診断を理解することが大切である。神経内科疾患の病態の理解により、患者の障害に対する理学療法士としての対応を学習する。神経内科学Ⅰでは主として症候学を中心に基礎的、総論的な内容を扱う。	①理学療法士としてかわかることが多い神経障害をもつ患者の病態を的確に把握することができ、説明できる。 ②患者毎に異なる神経症候や神経疾患の病態に応じた理学療法を想定してプログラムを組み立てることができる。 ③代表的な神経内科疾患の疫学、予後、病因、病態生理、症候、検査(画像・生理検査を含む)、診断、治療、薬物療法、リハビリテーション医療について説明できる。	◎	◎	○			◎
		神経内科学Ⅱ	M-MDC207	200	2秋	講義	1	「神経内科学Ⅱ」では「神経内科学Ⅰ」の内容を受けて、各神経疾患の具体的、各論的内容を扱う。「神経内科学Ⅰ」の基礎知識を基に、理学療法の対象となる障害を引き起こす各種神経内科疾患の疫学や予後、病態像と検査(画像・生理検査)、診断と治療について理解し、理学療法の評価と基本的な治療について学ぶ。	①理学療法士としてかわかることが多い神経障害をもつ患者の病態を的確に把握することができ、説明できる。 ②患者毎に異なる神経症候や神経疾患の病態に応じた理学療法を想定してプログラムを組み立てることができる。 ③代表的な神経内科疾患の疫学、予後、病因、病態生理、症候、検査(画像・生理検査を含む)、診断、治療、薬物療法、リハビリテーション医療について説明できる。	◎	◎	○			◎
		整形外科Ⅰ	M-MDC208	200	2春	講義	1	理学療法士が対象とする整形外科疾患のうち骨折、捻挫などの急性疾患の病態と治療法(観血的・非観血的)について修得する。	①整形外科疾患のうち骨折、捻挫などのの病態、治療法について説明できる。 ②チーム医療として整形外科スタッフと討議することができる。	◎	◎	○	○	○	◎
		整形外科Ⅱ	M-MDC209	200	2秋	講義	1	理学療法士が対象とする整形外科疾患のうち先天性疾患や慢性疾患の病態と治療法(観血的・非観血的)について修得する。	①整形外科疾患のうち先天性疾患や慢性疾患の病態、治療法について説明できる。 ②チーム医療として整形外科スタッフと討議することができる。	◎	◎	○	○	○	◎
		精神医学	M-MDC210	200	2春	講義	1	精神医学の基礎知識と各精神疾患の原因・病態・治療法を学び、理学療法士として必要な精神疾患患者及び精神障害者に対する理解を深め、精神症状を合併する患者に理学療法を行う際の正しい知識と姿勢を身につける。授業では、疫学、予後、病因、症候、検査(画像・生理検査を含む)、診断、治療、リハビリテーション医療、精神障害の一般的疾患、薬物療法について学ぶ。特に、統合失調症・認知症・双極性障害等の重要な疾患は十分な知識を得ることを目標とする。	①理学療法士として医療現場で働くにあたって、精神障害を持つ患者さんに対して、身体医学的な面からだけでなく、精神医学的、心理社会的な面からも適切なケアを行うことができ、患者さんを一人の人間としてトータルに看ることができる。 ②精神障害における異常心理及び症状、検査、診断、疾患分類について説明できる。 ③精神活動の年齢経過、ライフサイクルの様相とその障害の特徴について説明できる。 ④統合失調症、妄想性障害の概念、疫学、症状、診断、治療について説明できる。 ⑤気分(感情)障害の概念、疫学、症状、診断、治療について説明できる。 ⑥神経症性障害の概念、疫学、症状、診断について説明できる。 ⑦認知症の概念、疫学、成因、症状、診断について説明できる。 ⑧摂食障害、睡眠障害の概念、疫学、症状、診断について説明できる。 ⑨パーソナリティ障害の概念、疫学、症状、診断について説明できる。 ⑩向精神薬の種類とそれらの作用機序について説明できる。	○	◎	◎		◎	○

科目区分		授業科目名	科目コード ナンバー	ナンバ リング	配当 年次 学期	科目 種別	単位	1. 科目の目的	2. 科目の到達目標	3. 科目の目指す6つの目標・5つの基礎力と本学のDPで目指す能力等					
										①知識・理解	②思考・判断	③関心・意欲	④態度・規律	⑤技能・表現	⑥専門性と実践力・応用力
						講義 演習 実習 PBL など				幅広い知識・教養、基礎的学修力・理解力	思考力・判断力、課題の発見・分析・解決力	汎用的能力向上、社会への関心、意欲の向上	自主性・積極性・やりぬく力、自己規律の修得	社会人能力：コミュニケーション、チームワーク等	専門職として必要な知識・技術・応用力・分析力の修得
		病理学	M-MDC211	200	2春	講義	1	病理学の知識は、整形外科や神経内科学等の臨床医学の知識の基盤となるため、理学療法を行う上でも極めて重要である。本講義では、様々な疾患がどのような原因で、どのようにして生じるか、またどのような異常につながるかについて、体系的な知識を習得することを目指す。本講義の学修目標は、様々な疾病の成り立ちを総合的に理解し、説明できることとする。授業では、細胞・組織損傷、炎症、感染、腫瘍、病因論や病理学的変化、廃用症候群、生体反応等について取り扱う。	①病理学の考え方、細胞病理学について説明できる。 ②変性、肥大、過形成、代謝障害について説明できる。 ③血栓、塞栓、梗塞について説明できる。 ④炎症のメカニズム、感染症について説明できる。 ⑤免疫機構について説明できる。 ⑥腫瘍発生の要因、進展と転移機構、良性・悪性腫瘍の鑑別について説明できる。 ⑦腫瘍の増殖メカニズム、癌遺伝子、細胞接着、血管新生の機構について説明できる。 ⑧テロメアと早老症、骨硬化症、骨粗鬆症、遺伝性疾患、染色体異常、代表的な奇形症候群などについて説明できる。 ⑨動脈硬化症、心臓疾患の原因、機序を説明できる。 ⑩肺疾患の原因と性状について説明できる。 ⑪胃と腸の病気の原因・炎症機序を説明できる。肝臓、膵臓疾患の原因と病態を説明できる。 ⑫下垂体・甲状腺・副腎の病理、膵ランゲルハンス島の病理、白血病とリンパ腫について説明できる。 ⑬頭部外傷、中枢神経の循環障害や変性疾患の病態を説明できる。 ⑭骨・関節を中心とする骨組織の病変を説明できる。廃用症候群について説明できる。 ⑮腎臓疾患の原因を説明できる。急性・慢性腎不全、糸球体の病理について説明できる。 ⑯子宮頸部、子宮内膜の病理、パピニコウ染色について説明できる。	○	◎				○
		薬理学	M-MDC303	300	3春	講義	1	薬物の作用機序や投与方法、体内動態に関する基本的事項を理解した上で、対象疾患に関連する薬物療法の考え方、副作用や多剤服用(ポリファーマシー)に関する知識の習得を目指す。	以下について理解した内容を説明できる。 ①薬物療法の目的と薬物療法に影響を与える因子 ②代表的な薬理作用と作用機序 ③薬物動態(薬物の投与方法と吸収・分布・代謝・排泄) ④薬物の主作用と副作用、薬害、多剤服用 ⑤医薬品開発と医薬品の管理 ⑥末梢神経系作用薬の機序と副作用 ⑦中枢神経系作用薬の機序と副作用 ⑧心臓・血管作用薬の機序と副作用 ⑨抗炎症薬の機序と副作用 ⑩呼吸器系作用薬の機序と副作用	◎	○				◎
		臨床心理学	M-MDC212	200	2秋	講義	1	人の「こころ」の在り方や構造、発達のみかたの理解は、現代医療においてますます重要になってきている。本講義では、人を理解する方法である心理査定と、援助する方法である心理療法(カウンセリング)を学ぶ。本講義の学修目標は、患者の立場や心理、それに関わる援助者の心理、心理検査の目的と方法、心理療法や集団精神療法を理解することとする。授業では、心理の評価法や介入技法、精神分析・力動論、行動論・認知論、心理支援の対象領域などについて取り扱う。	①臨床心理学と精神医学の違いについて説明できる。 ②人間の知覚・学習・言語の理論について説明できる。 ③人間の感情・人格の理論について説明できる。 ④人間の心理的発達について説明できる。 ⑤様々な心理検査について説明でき、一部実施できる。 ⑥心理的支援の技法のいくつかについて説明でき、一部実施できる。 ⑦健康・医療、福祉、教育、司法・犯罪に関わる心理支援のあり方について説明できる。 ⑧精神疾患の心理的支援について説明できる。 ⑨心理学に関する法制度について説明できる。	○	◎	◎		◎	○
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	健康ビジネス論	M-REH401	400	4秋	講義・演習	2	健康維持、健康増進における理学療法と産業理学療法における理学療法を理解した上で、健康政策を、ビジネスから国家レベルまで幅広く捉え、国・地方自治体、スポーツ団体、NPO、企業などの行動原理を理解し、その解決に向けた具体方策の企画・立案のための能力の習得を目指す。	健康ビジネスが日本の将来に必要不可欠であり、その一翼を担うのが理学療法士の役割であることを理解する。また健康ビジネスに関与し、事業を推進できるように経営的な感覚を身につける。	○	○	◎	◎	◎	◎
		社会福祉概論	M-REH201	200	2春	講義	1	医療制度と共に社会を支える基盤である社会福祉を理解し、理学療法を実施する時に適切に知識を活かせるよう学ぶ。まず、社会保障制度や援助理論とその方法について歴史的な経過から知り、社会的な弱者に対して基礎的な生活要求や健康的かつ文化的な要求をどのように社会が取り組むか、基礎的な福祉の概念を学ぶ。	学生は医療職として社会福祉の意義を理解するように、以下を学び、説明ができる。 ①社会福祉の定義や社会福祉のニーズ ②社会福祉の様々な分野、関係する主な法律 ③福祉サービスの種類や内容 ④社会福祉施設の現状 ⑤社会福祉従事者、関係職種専門性	◎		◎		○	◎
		地域包括ケアシステム論	M-REH301	300	3秋	講義	1	国は近年、高齢者の尊厳の保持と自立生活支援を目的に地域で包括的なサービスの提供体制「地域包括ケアシステム」の構築を推進している。理学療法士の役割を理解し、多職種連携や支援方法を学ぶ。	授業内容の下記について、理解し説明ができる。 ①社会保障制度(医療保険、介護保険、年金保険、労災保険など)の施策の動向 ②高齢者が住み慣れた暮らしを続けるための課題 ③在宅生活を維持するためのサービス制度 ④認知症高齢者とその家族への支援内容 ⑤地域に応じた支援のための地域ケア会議 ⑥今後の課題と地域リハビリテーションで理学療法士が求められる専門性	○	○	◎		○	◎
		チーム医療論	M-REH302	300	3秋	講義	1	理学療法士がチーム医療を構成する一員であることを理解し、その基本姿勢を学ぶ。また他の専門職がどのような働きをするのかについて学んだ上でどのような協業を行うかについて理解する。	①チームで医療活動に関わることの重要性について説明できる。 ②保健・医療・福祉領域の多職種連携で理学療法士としての役割、業務の進め方などについて説明できる。	○	○	○		◎	◎
		リハビリテーション概論	M-REH101	100	1春	講義	1	リハビリテーションは全人間的復権であることを理解し、専門職としての倫理やチームアプローチの重要性について理解する。	①リハビリテーションの歴史、定義、理念、障害分類との位置づけを理解できる。 ②患者・障害者の心理・社会的側面を理解し、IL 運動やノーマライゼーションの背景と意味を理解できる。 ③リハビリテーション医療の過程と理学療法の役割を理解できる。 ④リハビリテーション医療(各機能障害別)におけるチーム医療について理解できる。	◎		◎		◎	◎
		基礎理学療法学	M-BPT101	100	1秋	講義	1	運動療法と関わりの深い身体ならびに身体器官の形態と機能の基礎を学ぶ。さらに、理学療法を行う上で必要な知識である機能障害の病態やそのメカニズムを学ぶ。	下記の項目について理解した内容を説明できるようになること。 ①筋収縮・筋肥大・筋萎縮のメカニズム ②運動における神経系の役割 ③運動と栄養 ④加齢による身体機能の変化 ⑤筋力低下(筋萎縮含む) ⑥関節可動域制限 ⑦疼痛 ⑧運動麻痺 ⑨感覚異常 ⑩筋緊張異常 ⑪平衡機能異常 ⑫認知機能低下 ⑬骨損傷 ⑭韧带損傷	○		○			◎
		基礎理学療法学演習Ⅰ	M-BPT102	100	1春	演習・実習	1	理学療法を学ぶ大学生として必要なリテラシーと態度を身につけ、社会人として求められる規範や法令を守るための「倫理観・公徳心」に加え自律性と主体性を養うことにより社会に貢献しうる専門職としての素養を身につけることを目的とする。	①大学での受講のルールを理解し、適切な受講態度とスキルを身につける。 ②適切にノートを取ることができる。 ③社会人としてのメール作法を身につけ適切に送受ができる。 ④他者の意見を理解した上で批判的吟味ができるようになる。 ⑤異なる意見を持った他者と適切にディスカッションすることができる。 ⑥医療職としての資質を理解し身につける。 ⑦適切に情報収集をすることができる。 ⑧社会人として他者との人間関係を適切に築く事ができる。	◎			◎	◎	◎
		基礎理学療法学演習Ⅱ	M-BPT103	100	1秋	演習・PBL	1	理学療法の概要と理学療法士の役割を理解し、そのアイデンティティーについて考え理学療法士としての基本的資質を涵養することを目的とする。	①理学療法学生としてのラーニングスキルを高める。 ②適切なプレゼンテーションができる。 ③グループ学習を通して医療・福祉に関する社会問題ならびに日本における理学療法の問題点を明確にし、改善策を考えることができる。 ④医療職者としてのマナーを身につけ実践できる。 ⑤守秘義務を理解することができる。 ⑥他者の立場になって考えることができる。 ⑦自分の進路と学習への取り組みについて自ら考えることで今後の学習に積極的に取り組むことができるようになる。	◎	◎	○	○	◎	◎

科目区分		授業科目名	科目コード ナンバー	ナンバ リング	配当 年次 学期	科目 種別	単位	1. 科目の目的	2. 科目の到達目標	3. 科目の目指す6つの目標・5つの基礎力と本学のDPで目指す能力等					
										①知識・理解	②思考・判断	③関心・意欲	④態度・規律	⑤技能・表現	⑥専門性と実践力・応用力
						講義 演習 実習 PBL など				幅広い知識・教養、基礎的学修力・理解力	思考力・判断力、課題の発見・分析・解決力	汎用的能力向上、社会への関心、意欲の向上	自主性・積極性・やりぬく力、自己規律の修得	社会人能力：コミュニケーション、チームワーク等	専門職として必要な知識・技術・応用力・分析力の修得
基礎 理学療法学	理学療法学	生体観察と触診法	M-BPT104	100	1秋	実習	1	「解剖学Ⅰ」で学んだ内容を踏まえて身体の観察と触診を実際に行い、その基本技術を修得する。	学生は、身体の主要な部位の観察と触診を瞬時に正しくできるよう実習する。学生は実習で身体のアライメントや姿勢の観察と、肩や関節、筋、腱、靱帯等の触診を行い、下記を修得する。 ①触診に適した対象者の肢位を選択することができる。 ②手指の使い方、触れる圧など触診に際する基本技術を習得する。 ③体表から触知可能な基本的な骨、靱帯、血管、神経を正確に触診できる。 ④代表的な四肢および体幹筋の筋収縮を起こさせ、正確に触診ができる。	○	○		◎	○	◎
		理学療法学概論	M-BPT105	100	1春	講義	1	理学療法概念、歴史、対象、方法、理論的背景、世界の理学療法、理学療法士としてのアイデンティティ、理学療法の法的根拠などについて学ぶ。また、理学療法の対象と理学療法で行われる評価の概要に加え、理学療法介入の概要について主要な疾患や障害を学ぶ。	①理学療法の概略を理解し、4年間にわたり学ぶ理学療法の基礎概念を身につけること。 ②理学療法士が行う仕事の内容を理解して応用力を高めること。	○		○			◎
		理学療法学特論	M-BPT201	200	2秋	講義	1	理学療法の各分野の特徴について理解し、説明できるようになることとする。また本講義を通じて、理学療法士の免許取得後のキャリアデザインについて自分自身の考えを持ち、他者に伝えることができるようになることを目指す。	各分野の理学療法業務内容を理解し、3年次配当の専門領域における選択科目履修の参考となることが第1の目標である。また、理学療法士業務はジェネラリストとしての能力も求められるため、各分野の理学療法内容を知ることによってスペシャリストとしての志向だけではなくジェネラリストの素養を養うことも目標とする。	○		○			◎
		理学療法文献講読	M-BPT301	300	3春	演習	2	自ら新しい知識や技術を取り入れ、知識の充実や技術の向上は重要である。本授業では、最新の理学療法研究報告、症例検討、調査報告を論文や文献を使用し、教員のファシリテーションにより熟読し、科学的根拠の重要性を理解する。	①講義、資料、参考文献、論文等より重要事項や課題点・目標を設定できる。 ②得られた情報を統合し、客観的・批判的に整理して自身の考えを表現できる。 ③授業で体験し感じた自らの思考内容を言語化し、文献抄読レポートなどを作成できる。	◎		○	◎		◎
		理学療法臨床英語	M-BPT302	300	3秋	演習	1	理学療法実施のための基本スキルとして世界共通語である英語力が求められる。本科目では、他職種との情報交換や英語論文の読解のために必要な医療英語や、リハビリテーション場面で用いられる英語表現について学ぶ。	①骨・筋・神経等に関連する主要な英単語を読解できる。 ②理学療法に関連する主要な英単語を読解できる。 ③リハビリテーション領域の基本的な英単語を読解できる。 ④理学療法で用いられる基本的な英会話表現を用いることができる。	◎		◎	○		◎
	理学療法管理学	理学療法管理学	M-MPT401	400	4秋	講義	2	理学療法士及び作業療法士法ならびに関連職種に関する資格法との関係や、法規による理学療法士の社会的な位置づけを理解する。	①理学療法士作業療法士法に関する知識を習得する。 ②医療保険領域や介護保険領域、さらに介護保険領域における理学療法士の役割や多職種連携の意義に関して理解し、説明できる。 ③リスク管理の実践について理解し、説明できる。 ④管理とは何かを全体を通じて理解し、説明できる。	○	○	◎			◎
	理学療法評価学	機能・能力評価学Ⅰ	M-ASS101	100	1秋	講義	2	評価技術の定着に先駆けて、基本的な理学療法 評価の方法とその評価結果の解釈、注意点およびリスクについて理解する。	①理学療法評価の概要について説明できる。 ②理学療法評価の目的を正しく説明できる。 ③検査・測定に関する実施前のオリエンテーションならびに結果の説明ができる。 ④検査・測定結果を解釈することができる。	○		○			◎
		機能・能力評価学実習Ⅰ	M-ASS102	100	1秋	実習	1	「機能・能力評価学Ⅰ」で学んだ知識を基にして、基本的な評価技術の定着させる。	①基本的な検査・測定(バイタルサイン、形態計測、ROM、痛み)を実施することができる。 ②検査・測定に関する実施前のオリエンテーションならびに結果の説明ができる。 ③理学療法評価の目的を正しく説明できる。 ④検査・測定結果を解釈することができる。 ⑤他者と協働して課題や実技に取り組むことができる。	○	○			○	◎
		機能・能力評価学Ⅱ	M-ASS201	200	2春	講義	2	各種評価の目的と臨床的意義を理解し、評価結果の統合と解釈、治療到達目標の設定、理学療法プログラムの立案につながる臨床推論の基本的な流れが展開できる素地を養う。	①各種検査に関連する基礎理論を説明できる。 ②疾患特性に応じた各種検査の陰性・陽性徴候の関連を説明できる。 ③各種検査の実施方法を説明できる。	○		○			◎
		機能・能力評価学実習Ⅱ	M-ASS202	200	2春	実習	1	各種検査の目的、具体的方法、結果の統合と解釈を整理したうえで実践し、その検査技術を修得する。	①障害に対する各種検査の意義を説明できる。 ②各種検査の具体的手順を説明、実施できる。 ③検査結果を解釈できる。	○	○			○	◎
		臨床運動分析学演習	M-ASS203	200	2秋	演習	2	本演習では、「運動学」や「運動学実習」で修得してきた知識をもとに、立ち上がり、歩行等の基本動作を力学的に理解し説明できるようにすることを目指す。また、理学療法の対象疾患において特徴的な姿勢や動作の診かたについても学び、肉眼的に動作分析できるようにすることを目指す。	①姿勢や動作を専門的な用語を用いて表現できる。 ②動作の特徴を肉眼的に観察し、分析できるようになる。 ③各種疾患の動作の特徴を説明できる。	◎	◎				◎
		ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法	M-TRE401	400	4秋	講義	1	女性および男性それぞれのライフステージにおいて起こる様々な生理学的変化や心理社会的影響、特有の身体的変化を理解し、心身の健康状態を維持・増進するための理学療法の理論と実際を学ぶ。	①ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法の概要、目的について説明できる。 ②ウィメンズヘルス・メンズヘルス分野における障害と治療について説明できる。	○		◎			◎
	運動器理学療法学	運動器理学療法学Ⅰ	M-TRE201	200	2秋	講義	1	運動器疾患に対する理学療法の総論や各組織の治療過程、各疾患の病態を学び、それらに基づいた系統的な理学療法評価とその統合と解釈、さらには治療計画立案のプロセスについて理解を深める。	①主要な運動器疾患の疫学や病態を平易な言葉で説明できる。 ②主要な運動器疾患に対する理学療法評価を説明できる。	○		○			◎
		運動器理学療法学実習Ⅰ	M-TRE202	200	2秋	実習	1	「運動器理学療法学Ⅰ」で学んだ基礎理論を踏まえて、運動器障害に対する系統的な理学療法評価とその統合と解釈、さらには治療計画立案の進め方を実践する。	①主要な運動器疾患に対する標準的な理学療法評価を実施できる。 ②理学療法評価結果の統合と解釈を行い、大まかな治療計画を立案できる。	○	○			○	◎
		運動器理学療法学Ⅱ	M-TRE301	300	3春	講義	1	運動器疾患に対する系統的な理学療法治療の理論を学修する。また、各疾患の病態から考えられる、理学療法を進めるうえでのリスク管理についても理解を深める。	①主要な運動器疾患に対する標準的な理学療法治療を説明できる。 ②主要な運動器疾患のリスク管理のポイントを説明できる。	○		○			◎
		運動器理学療法学実習Ⅱ	M-TRE302	300	3春	実習	1	「運動器理学療法学Ⅱ」で学んだ基礎理論を踏まえて、運動器疾患に対する系統的な理学療法治療を実践し、技術を修得する。また、評価に基づいた治療プログラム立案の考え方も学修する。	①主要な運動器疾患の病態を正確に判断したうえで理学療法の治療プログラムを立案できる。 ②主要な運動器疾患に対する標準的な理学療法治療を実施できる。 ③主要な運動器疾患のリスク管理を実施できる。	○	○			○	◎

科目区分		授業科目名	科目コード ナンバー	ナンバ リング	配当 年次 学期	科目 種別	単位	1. 科目の目的	2. 科目の到達目標	3. 科目の目指す6つの目標・5つの基礎力と本学のDPで目指す能力等					
										①知識・理解	②思考・判断	③関心・意欲	④態度・規律	⑤技能・表現	⑥専門性と実践力・応用力
						講義 演習 実習 PBL など		授業科目で何を目的に学修し、どのような内容の理解を狙いとするか。	授業での教育・学修を通じて学生がどのような学修成果の達成を目指し、何を到達目標とするか。	幅広い知識・教養、基礎的学修力・理解力	思考力・判断力、課題の発見・分析・解決力	汎用的能力向上、社会への関心、意欲の向上	自主性・積極性・やりぬく力、自己規律の修得	社会人能力：コミュニケーション、チームワーク等	専門職として必要な知識・技術・応用力・分析力の修得
理学療法	治	運動療法学	M-TRE101	100	1秋	講義	1	理学療法のための主要な治療技術である運動療法について、対象となる病態の理解を深め、運動メカニズム、運動学習、運動連鎖などの主要な理論的枠組みを学修する	①運動療法の意義、目的、対象、禁忌などの運動療法の基本概念を理解し、説明できる。 ②運動療法の基礎理論について理解し、説明できる。 ③運動療法で使用する機器等について理解し、説明できる。	○	○	○		○	◎
		運動療法学実習	M-TRE203	200	2春	実習	1	「運動療法学」の知識をもとに、理学療法の対象となる疾患・障害に対しての運動療法の理論と技術について理解し、実施できることを目標とする。	①身体に触れる際の心構え、および理学療法士として対応しい態度について理解し、実施できる。 ②運動療法の各項目に関する理論と技術について理解し、説明と実施ができる。	◎	◎		○	◎	◎
		義肢装具学	M-TRE204	200	2秋	講義	1	理学療法の基本的な治療の装具療法を学ぶ。義肢と装具の種類とその使用目的を理解し、対象者に直接装着し使用するために必要な適合とその確認方法や調整方法について、基礎的な知識を学ぶ。	授業内容の下記を理解し、説明できる。 ①装具療法の目的や装具・義肢の種類 ②下肢装具・上肢装具・体幹装具の処方目的と適合 ③切断の理学療法、切断原因と理学療法評価 ④大腿義足、下腿義足の作成と適合判定、断端ケアと生活指導 ⑤義足の装着、在宅生活指導 ⑥姿勢保持と座位保持装置、シーティング	◎	○	○		○	◎
		義肢装具学演習	M-TRE205	200	2秋	演習	1	理学療法士として必要な義肢装具学に関する基礎技術を修得する。	義肢装具学に関する以下の技術を実施することができる。 ①装具の名称と構成部品、装具を作成するための採寸と採型 ②下肢装具の適合判定、装着練習と歩行効果 ③上肢装具・体幹装具も適合判定 ④切断者の理学療法評価、生活指導と断端ケア ⑤義肢のアライメント調整、適合判定 ⑥義足の装着と立位・歩行練習 ⑦座位保持装置、小児・中枢神経疾患の装具を使用した理学療法練習	○	◎		○	○	◎
		クリニカル・リーズニング総論	M-TRE303	300	3秋	講義	2	検査・測定に基づく対象者の評価から問題点(推論含む)を提起し、その問題点を解決するための目標設定や治療計画の立案などの基本的なプロセスについて、最新の知見を取り入れながら学ぶ。また、対象者を生活者としての視点でも捉え個人的因子や背景因子なども加味した理学療法のプロセスについても学ぶ。	理学療法評価・臨床推論の方法と過程を理解する。	○		○			◎
		クリニカル・リーズニング各論	M-TRE402	400	4秋	演習	2	症例の情報、検査所見、画像などから、必要な評価項目、理学療法を行う上でのリスクや配慮、問題提起の視点や理学療法の問題とその方法を検討する。	代表的な疾患に対する理学療法評価・臨床推論(Clinical Reasoning：CR)の流れを理解し、ある程度の助言によりクリニカル・リーズニングが実践できる。	○	○			○	◎
		障がい者スポーツ支援論	M-TRE403	400	4秋	演習	2	全ての人がスポーツを通じて豊かな生活を過ごすというスポーツ基本法の理念に基づいて、障がい者や障がい児のスポーツ活動の重要性を理解する。	①障がい者スポーツの意義と理念を説明できる。 ②障がい者スポーツ指導者制度の概要を説明できる。 ③身体・知的・精神障がいの種類と特徴を説明できる。 ④障がい者スポーツの効果の説明できる。 ⑤障がい者スポーツを実施するにあたって必要な基本的な安全管理について説明できる。 ⑥代表的な障がい者スポーツの競技概要が説明できる。	◎	○	○		◎	◎
		小児理学療法学	M-TRE304	300	3春	講義	1	出生時や成長期に障害を引き起こし理学療法の対象となる主な疾患である脳性麻痺、二分脊椎や運動発達遅滞、染色体異常(Down症候群など)の病態と成長発達に及ぼす影響を学ぶ、小児理学療法を実施するため、検査・評価方法や治療原則の基礎知識を学ぶ。	授業内容の下記について理解し、説明できる。 ①周産期、出生時や発達の初期に生じる障害に対する理学療法 ②新生児、乳児の正常発達のメカニズムと要因 ③周産期理学療法、NICUの理学療法士の役割 ④乳児期、新生児の姿勢と運動評価、原始反射と姿勢反射評価 ⑤脳性麻痺の病態と障害像、治療プランの作成 ⑥脳性麻痺の評価指標 ⑦二分脊椎症の病態と障害像 ⑧ダウン症の病態と理学療法の評価と治療 ⑨先天異常と遺伝子疾患の病態と治療 ⑩摂食嚥下障害の理学療法 ⑪学齢児の理学療法、特別支援教育	◎		○		○	◎
		神経・筋疾患理学療法学	M-TRE305	300	3春	講義	1	ギラン・バレー症候群や重症筋無力症など神経・筋疾患に関する理解し、理学療法評価およびその治療的技法について学ぶ。	①神経筋疾患に関して理解した内容を説明できる。 ②神経系の感染性疾患・変性疾患・脱髄疾患・錐体外路系疾患・筋疾患のそれぞれの病態を理解しその理学療法に関して、包括的な治療や患者ケアを説明できる。	◎	◎		○		◎
		スポーツトレーニング特論	M-TRE404	400	4秋	演習	2	障害予防、健康増進、競技力向上のために筋力トレーニングを基盤として、筋力、パワー、スピード、柔軟性全身持久力も含めた体力諸要素を総合的に向上させる知識・技術を理解する。	①身体に触れる際の心構え、および理学療法士として対応しい態度について理解し、実施できる。 ②講義で扱う各項目に関する理論と技術について理解し、説明と実施できる。	◎	◎	○	◎	◎	◎
		スポーツ理学療法学	M-TRE308	300	3春	講義	2	競技スポーツから健康維持を含めた生涯スポーツ場面で生じやすいスポーツ外傷・障害に対して理学療法士として適切に対応するための知識・技術について学修する。	①スポーツ理学療法の意義、目的、対象、禁忌などの基本概念を理解し、説明できる。 ②スポーツ理学療法の対象となるスポーツ外傷・障害について理解し、説明できる。	○		○			◎
		スポーツ理学療法学演習	M-TRE309	300	3秋	演習	2	「スポーツ理学療法学」で学んだ基礎理論を踏まえて、実際の臨床場面での原因考察能力を養う。また、損傷組織の治癒過程と競技特性を考慮した系統的な理学療法も学ぶ。さらに、スポーツ外傷・障害の発生メカニズムを考察し、それに基づいた理学療法を立案・実践することを行う。	①主要なスポーツ外傷・障害の疫学や病態、各種目の競技特性を平易な言葉で説明できる。 ②スポーツ外傷・障害に対する理学療法評価を実施できる。 ③理学療法評価結果から考えたスポーツ外傷・障害の発生メカニズムに基づき、治療を立案・実践できる。	○	○			○	◎
		神経理学療法学Ⅰ	M-TRE206	200	2秋	講義	1	脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍の病態・心身機能の特徴を理解した上で、理学療法に必要な評価、治療の概要について理解することを目的とする。	下記の項目について説明できるようになることとする。 ①脳血管障害・頭部外傷・脳腫瘍の病態・心身機能の特徴を踏まえ、代表的な検査の意義と検査方法 ②理学療法の治療方法 ③チーム医療としての理学療法士の位置づけ	◎	○	○	○	○	◎
		神経理学療法学実習Ⅰ	M-TRE207	200	2秋	実習	1	脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍についての知識を基に、各種検査時のオリエンテーション、反応を引き出すための工夫、動作時の介助方法や治療方法を実技を通して理解することを目的とする。	下記の項目について、リスク管理を考慮した上で、実施できるようにすることとする。 ①疾患に対して理学療法士が行う検査・治療 ②移乗・移動動作時の介助 ③理学療法におけるリスク管理	◎	◎	◎	○	○	◎
		神経理学療法学Ⅱ	M-TRE306	300	3春	講義	1	脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍以外の中枢神経に病態を持つ疾患についての基礎知識と理学療法に必要な評価内容ならびに治療概念を理解することを目的とする。	下記の項目について説明できるようになることとする。 ①パーキンソン病の評価と理学療法 ②脊髄小脳変性症の評価と理学療法 ③多発性硬化症の評価と理学療法 ④アルツハイマー型認知症・前頭側頭型認知症の評価と理学療法 ⑤筋萎縮性側索硬化症の評価と理学療法 ⑥脊髄損傷の評価と理学療法	◎	○	○	○	○	◎

科目区分		授業科目名	科目コード ナンバー	ナンバ リング	配当 年次 学期	科目 種別	単位	1. 科目の目的	2. 科目の到達目標	3. 科目の目指す6つの目標・5つの基礎力と本学のDPで目指す能力等					
										①知識・理解	②思考・判断	③関心・意欲	④態度・規律	⑤技能・表現	⑥専門性と実践力・応用力
						講義 演習 実習 PBL など				幅広い知識・教養、基礎的学修力・理解力	思考力・判断力、課題の発見・分析・解決力	汎用的能力向上、社会への関心、意欲の向上	自主性・積極性・やりぬく力、自己規律の修得	社会人能力：コミュニケーション、チームワーク等	専門職として必要な知識・技術・応用力・分析力の修得
専門科目	療学	神経理学療法学実習Ⅱ	M-TRE307	300	3春	実習	1	脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍以外の中枢神経に病態を持つ疾患についての知識を基に、各種検査時のオリエンテーション、反応を引き出すための工夫、動作時の介助方法や治療方法を実技を通して理解することを目的とする。	授業での教育・学修を通じて学生がどのような学修成果の達成を目指し、何を到達目標とするか。 下記の項目についてリスク管理を考慮した上で、実施できるようになることとする。 ①パーキンソン病の評価と理学療法 ②脊髄小脳変性症の評価と理学療法 ③多発性硬化症の評価と理学療法 ④アルツハイマー型認知症・前頭側頭型認知症の評価と理学療法 ⑤筋萎縮性側索硬化症の評価と理学療法 ⑥脊髄損傷の評価と理学療法	◎	◎	◎	○	○	◎
		疼痛理学療法学	M-TRE310	300	3秋	講義	1	疼痛を引き起こす各種疾患(複合性局所疼痛症候群、線維筋痛症など)ならびに、疼痛に対する評価と治療の概念を理解することを目的とする。	下記の項目について説明できるようになることとする。 ①疼痛の分類と疫学 ②疼痛の発症メカニズムと関連する神経生理学 ③急性疼痛と慢性疼痛の違いとそれぞれの病態 ④疼痛管理における評価と理学療法 ⑤疼痛有訴者のクリニカルリーズニングの手順	◎	○	○	○	○	◎
		内部機能理学療法学Ⅰ	M-TRE311	300	3春	講義	1	「内部機能理学療法学Ⅰ」では、循環器・呼吸器系障害を引き起こす疾患の病因、病態生理や診断、治療について基礎的知識を理解し、それに関連する理学療法の基礎的技術を学ぶ。	「内部機能理学療法Ⅰ」では下記の項目を達成することを目標とする。 ①酸素搬送系を理解し、運動耐容能の規定因子を説明できる ②呼吸器系の解剖・運動・生理学的な知識を習得し、呼吸器疾患の病態生理について説明できる。 ③安静時および運動中の換気応答および息切れのメカニズムについて、健康者、COPD や間質性肺炎の特徴を理解し、説明できる ④疾患別の呼吸理学療法およびリハビリテーションにおける情報収集の内容と評価項目を列挙し、疾患別に必要な情報収集と評価項目を選択できる。 ⑤疾患別の呼吸理学療法を計画し、目的から治療効果についてまで述べるができる。 ⑥運動負荷試験について説明することができ、それに基づく運動処方ができる。 ⑦排痰手技および吸引について理解し、一連の方法を説明できる。 ⑧循環器疾患・代謝疾患における情報収集と評価を理解し、説明できる。 ⑨心電図の基礎波形について説明でき、不整脈と運動について説明できる。 ⑩心肺運動負荷試験の方法およびその結果解釈から運動制限因子を検索できる。 ⑪虚血性心疾患および慢性心不全、末梢動脈疾患における理学療法評価とプログラムについて論理的に説明できる。 ⑫循環器及び代謝疾患のリスク管理について習得し、説明できる	◎	○				◎
		内部機能理学療法学Ⅱ	M-TRE312	300	3春	講義	1	腎臓疾患とがんの理学療法に関してその疾患の病因、病態生理と診断についての基礎知識をもとに、理学療法の実施に関する基礎的な知識を身につける。	以下の概要と具体的な方法について説明することができる。 ①腎疾患・慢性腎臓病に対する理学療法の評価及びプログラム ②透析患者に対する理学療法 ③腎移植患者への理学療法 ④がん患者の全身機能、日常生活活動の評価 ⑤化学療法・放射線療法施行患者に対する理学療法 ⑥造血幹細胞移植施行患者に対する理学療法 ⑦乳がん・婦人科がんの手術・リンパ浮腫患者に対する理学療法 ⑧肺がん及び消化器がん手術患者に対する理学療法 ⑨軟骨部腫瘍・転移性骨腫瘍・脊髄腫瘍患者に対する理学療法	◎	○				◎
		内部機能理学療法学実習	M-TRE313	300	3春	実習	1	内部障害系疾患に対する理学療法を実施するために、基本的な技術と評価や計測と治療原則を学ぶ。	内部機能理学療法学実習では下記の項目を達成することを目標とする。 ①バイタルサインを評価できる。 ②スパイロメリーの測定と解釈ができる。 ③フィジカルアセスメントを行うことができる。 ④呼吸理学療法におけるコンディショニングの目的と方法を理解した上で実施できる。 ⑤呼吸理学療法の安全管理を理解した上で実施できる。 ⑥運動負荷試験の基本的な構成、準備及び手順を理解した上で実施できる。 ⑦ADLトレーニング及び呼吸筋トレーニングの目的と手順を理解した上で実施できる。 ⑧息切れ対策について、方法と手順を理解した上で実施できる。 ⑨シミュレーターを用いて吸引が実施できる。 ⑩慢性腎臓病及び糖尿病における理学療法の目的と手順を述べることができ、実施することができる。	◎	○				◎
		日常生活活動理学療法学	M-TRE208	200	2秋	講義	1	理学療法における日常生活の位置づけ、各種日常生活動作の能力評価、運動学的評価、障害分類とその治療について理解し、説明できる。	①日常生活活動の概念、範囲について説明できる。 ②日常生活活動(ADL)評価、QOL 評価について説明できる。 ③日常生活動作能力の運動学的分析及び治療的介入との関係について説明できる。	◎	○	○			◎
		日常生活活動理学療法学実習	M-TRE209	200	2秋	実習	1	日常生活活動理学療法学の知識を基に、理学療法士として基礎的なスキルを学ぶ。様々な疾患を患った対象者の日常生活活動能力を適切に評価できること、ならびに基本動作についての適切な指導と治療的介入ができることである。	①正常の ADL 動作について説明できる。 ②各疾患及び障害における ADL 動作の特徴を説明できる。 ③各疾患および障害における ADL 動作で適切な指導及び介助・支援ができる。 ④生活支援機器を用いて安全な ADL 動作の指導及び介助支援ができる。	◎	◎		○		◎
		物理療法学	M-TRE210	200	2秋	講義	1	本講義の学修目標は、各種物理療法(温熱療法・寒冷療法・光線療法・超音波療法・多連発骨格筋磁気刺激装置・電気刺激療法・牽引療法等)の適用と禁忌、それらの実施方法について理解し、説明できるようになることとする。また、各種物理療法に関する科学的知見についても、学術論文やガイドラインを提示しながら説明し、エビデンスに基づく物理療法を実施するために必要な知識の修得を目指す。	①物理療法(温熱療法・寒冷療法・光線療法・超音波療法・多連発骨格筋磁気刺激装置・電気刺激療法・牽引療法)の種類を説明できる。 ②物理療法で使用するエネルギー(温熱・寒冷・光線・超音波・磁気・電気など)の特徴と期待できる生理学的効果を説明できる力を養う ③物理療法の適応と禁忌、その実施方法について説明できる知識を修得する。	◎	◎				◎
		物理療法学実習	M-TRE211	200	2秋	実習	1	対象者に対して安全かつ効果的な理学療法を提供できるように、基本的な技術のひとつである物理療法の知識・技能について実習を通じて修得する。	①物理療法(温熱療法・寒冷療法・光線療法・超音波療法・多連発骨格筋磁気刺激装置・電気刺激療法・牽引療法など)の使用手順・禁忌事項を理解し、物理療法機器を適切に使用できる力を養う。 ②物理療法実施前後の効果判定を実施できる力を養う。	◎	◎		◎		◎
		理学療法リスクマネジメント演習	M-TRE214	200	2秋	演習	1	本講義では、主に理学療法の現場で発生する事故や病気およびその管理問題について、基礎知識と考え方、最新動向、先進国のリスクマネジメントの捉え方、組織の内部統制との関連等を具体的な事例をもとに学修する。本講義の学修目標は、医療現場で発生する事故や病気の背景や原因を理解し、事故発生予防策および発生時の処置を実践できることとする。授業では、3 大疾患を中心とした重度の循環不全や呼吸不全、熱傷、熱中症、固定法と止血法、災害医療、災害予防などを取り扱う。	医療現場で発生する事故や病気の背景や原因を理解し、ある程度の助言により事故発生予防策および発生時の処置を実践できる事を目標とする。	◎	◎			◎	◎
		理学療法学演習Ⅰ	M-TRE212	200	2春	演習	1	運動器障害を持つ理学療法対象患者の身体的・心理的・社会的な問題点を抽出しそれらの問題点の原因分析と改善の可否についても検討した上で妥当性のある解決策を導き出す能力を高める。	運動器障害に対し、 ①症例報告を読むことで、理学療法士の役割と理学療法の内容についてより深く理解する。 ②理学療法における一連の問題解決法についてグループワークを通し理解する。 ③理学療法プログラム作成までのプロセスを理解する。		◎	○	○	○	◎

科目区分		授業科目名	科目コード ナンバー	ナンバ リング	配当 年次 学期	科目 種別	単位	1. 科目の目的	2. 科目の到達目標	3. 科目の目指す6つの目標・5つの基礎力と本学のDPで目指す能力等					
										①知識・理解	②思考・判断	③関心・意欲	④態度・規律	⑤技能・表現	⑥専門性と実践力・応用力
						講義 演習 実習 PBL など				幅広い知識・教養、基礎的学修力・理解力	思考力・判断力、課題の発見・分析・解決力	汎用的能力向上、社会への関心、意欲の向上	自主性・積極性・やりぬく力、自己規律の修得	社会人能力：コミュニケーション、チームワーク等	専門職として必要な知識・技術・応用力・分析力の修得
		理学療法学演習Ⅱ	M-TRE213	200	2秋	演習	1	①中枢神経疾患患者の身体的・心理的・社会的な問題点を抽出しそれらの問題点の原因分析と改善の可否についても検討した上で妥当性のある解決策を導き出す能力を高める。 ②中枢神経疾患患者に対する理学療法の一連の行動を理解し基本的技術を実践できる。	①より多様な問題点を持つ中枢神経系疾患患者に対する理学療法を行う上で重要な問題点の原因分析と改善法について演習を通して考察ができるようになる。 ②臨床実習の前段階として、中枢神経疾患患者対応や、移乗介助技術、評価技術などの臨床能力を高める。	○	◎	○	○	○	◎
		理学療法学演習Ⅲ	M-TRE314	300	3春	演習	1	①重複障害を持つ理学療法対象患者の問題点を実際の患者の動画やCT、MRI、X線画像、心電図、臨床検査データ等を元に抽出しそれらの原因分析と改善の可否についても検討した上で妥当性のある解決策を導き出す能力を高める。 ②理学療法診療ガイドラインを参考に、各疾患や障害に対する理学療法のエビデンスについて確認し、理解する能力を身につける。	①病状と各種検査のデータの関係を理解できる。 ②重複障害を持った患者に対する理学療法の注意点や留意点などを理解できる。 ③患者個人のニーズに合った理学療法とはどのようなものか理解できる。 ④理学療法についてのエビデンスを理解できる。 ⑤各種疾患に対する理学療法の効果について客観的に判定できる。				○	○	◎
		臨床理学療法論	M-TRE405	400	4秋	講義	2	理学療法士の専門領域を深く学ぶため、臨床的な観点から患者の全体像を捉え、目標、問題点、治療プログラム立案を学ぶ。今後求められる先端理学療法や最新のニューロリハビリテーション医療・運動療法・遠伝予治療や再生医療のリハビリテーションを知る。スポーツ・臨床・予防のコース別に学ぶ内容について、全体を把握し自ら選択できるように理解を深める。	①様々な観点から患者の全体像を把握し、より実践的な理学療法プログラムを立案できる。 ②最新の医療・リハビリテーションについて理解し、説明できる。	◎	◎	◎	○		◎
	地域 理 学 療 法 学	介護予防評価演習	M-COM301	300	3秋	演習	2	高齢者の介護予防に特化した評価技術について、演習を通して理解すること。	下記の項目について説明できるようになることとする。 ①介護予防に関するチェックリストの意味 ②健康診断におけるデータの解釈の仕方 ③身体機能の評価の方法と手順 ④精神・認知機能の評価の方法と手順 ⑤栄養状態・嚥下機能評価の方法と手順	◎	◎	◎	○	○	◎
		生活環境支援理学療法学	M-COM302	300	3秋	講義	1	生活環境支援理学療法学では、障害を有しても、快適で自立した生活を営むことができる生活環境の構築を行うための支援法について理解を深める。	①生活環境支援で有用な福祉用具や住宅改修の考え方・定義、種類と選択、指導方法について説明できる。 ②障害別に住宅改修や福祉用具の具体的な支援計画、実施方法について説明できる。 ③他領域の開発・実用化された福祉用具について簡単な説明ができる。	◎	○				◎
		地域理学療法学	M-COM303	300	3春	講義	1	理学療法士として、身近な地域での生活や健康増進、介護予防などに取り組むための基本的な知識を習得する。福祉施設やサービスを理解し、専門職種としての役割を学ぶ。	学生は下記を説明できる。 ①地域における理学療法 ②入所施設・通所施設・訪問における理学療法 ③地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割 ④地域における多職種連携 ⑤災害時における活動支援の概要、理学療法士の役割 ⑥災害時の避難所における健康課題、復興支援期における生活課題 ⑦国際支援に関わる基盤や理学療法士の役割	◎	○	○		○	
		予防理学療法学総論	M-COM304	300	3春	講義	1	理学療法のための専門的立場から予防的介入（運動療法、動作指導、セルフマネジメント指導を中心とした介入）によって、壮年期から老年期に起こりやすいイベントや疾病（転倒、誤嚥、運動器不安定症、認知症、生活習慣病など）の総合的な予防方法を理解することを目的とする。	下記の項目について説明できるようになることとする。 ①老年期の身体的特徴 ②予防の観点からみた各種理学療法 ③労働災害の予防 ④コミュニティ・プロモーション ⑤学童期にみられる運動器障害と予防 ⑥ヘルスコミュニケーション ⑦予防理学療法学領域の研究法	◎	○	○	○	○	◎
		予防理学療法学各論	M-COM401	400	4秋	講義	2	腰痛、脳血管障害、骨折の予防に主眼を置き、理学療法士の立場からの専門的介入（運動療法、動作指導、セルフマネジメント指導を中心とした介入）を理解することを目的とする。	下記の項目について説明できるようになることとする。 ①「予防」に関連する理学療法とは何か ②障がい発生のメカニズムの解明、発生の予測、予防法	◎	◎	○	○	○	◎
		機能・能力評価学臨床実習	M-CLT201	200	2秋	実習	5	対象者の情報収集能力ならびに検査・測定技術の向上を図ることを目的とする。	【技術面】以下のことができるようになることとする。 ①対象者の情報収集(医療面接含む) ②対象者の状態に配慮した上で、指定された検査・測定に関するオリエンテーション ③指定された検査・測定に関するリスクへの配慮 ④対象者の状態に応じて指定された検査・測定 【知識面】以下のことが説明できることとする。 ①情報収集の意味、収集した情報の活用の仕方 ②指定された検査・測定の方法や結果 ③指定された検査・測定のリスクの種類、原因および対処方法 【記録・報告】以下のことができるようになることとする。 ①経験したことにおける専門用語を用いた簡潔な記録 ②経験したことにおける「結果と考察」について、専門用語を用いた明瞭かつ論理的な記録 ③経験したことにおける「臨床実習指導者から受けた指導や助言」、「自身の解釈と疑問点」ならびに「学習したこと」について、専門用語を用いた簡潔・明瞭な記録 ④記録した内容について、口頭あるいは文書による報告	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	臨床 実 習	総合臨床実習Ⅰ	M-CLT301	300	3秋	実習	7	症例に対する各種の情報収集ならびに、理学療法評価に基づいた統合と解釈の実践を経験すること。	【技術面】以下のことができるようになることとする。 ①適切な検査・測定評価項目およびその方法の選択 ②選択した検査・測定に関するオリエンテーション ③選択した検査・測定とリスクへの配慮 ④チーム・アプローチの観点を取り入れた情報収集ならびに検査・測定結果からの問題点の抽出 ⑤個々の問題点の原因についての考察 【知識面】以下のことが説明できることとする。 ①適切な検査・測定項目の選択や評価の考え方と手順 ②選択した検査・測定に関するオリエンテーションの必要性 ③選択した検査・測定のリスクや対処方法 ④チーム・アプローチの意味と重要性 ⑤検査・測定結果から問題点を抽出する方法 ⑥抽出した問題点の整理(階層化や優先順位付け含む) ⑦体験する理学療法プログラムに関するリスクならびにその理由と対処方法 【記録・報告】以下のことができるようになることとする。 ①専門用語を用いた簡潔かつ明瞭な記録 ②経験したことにおける結果と考察について、専門用語を用いた記録 ③経験したことにおける「臨床実習指導者から受けた指導や助言」、「自身の解釈と疑問点」ならびに「学習したこと」について、専門用語を用いた記録 ④記録した内容について、口頭あるいは文書による報告	◎	◎	◎	◎	◎	◎

科目区分		授業科目名	科目コード ナンバー	ナンバ リング	配当 年次 学期	科目 種別	単位	1. 科目の目的	2. 科目の到達目標	3. 科目の目指す6つの目標・5つの基礎力と本学のDPで目指す能力等					
										①知識・理解	②思考・判断	③関心・意欲	④態度・規律	⑤技能・表現	⑥専門性と実践力・応用力
						講義 演習 実習 PBL など				幅広い知識・教養、基礎的学修力・理解力	思考力・判断力、課題の発見・分析・解決力	汎用的能力向上、社会への関心、意欲の向上	自主性・積極性・やりぬく力、自己規律の修得	社会人能力：コミュニケーション、チームワーク等	専門職として必要な知識・技術・応用力・分析力の修得
		総合臨床実習Ⅱ	M-CLT401	400	4春	実習	9	チーム・アプローチの観点を十分に取り入れ、症例に対する包括的な情報収集ならびに理学療法評価から治療実践、さらにその後の再評価まで、一連の理学療法プロセスを経験することを目的とする。	授業での教育・学修を通じて学生がどのような学修成果の達成を目指し、何を到達目標とするか。 【技術面】以下のことができるようになることとする。 ①チーム・アプローチの観点を取り入れた情報収集ならびに検査・測定結果から抽出された問題点の考察 ②問題点の原因と経過を勘案した短期目標の立案 ③問題点の原因と経過を勘案した中・長期目標の立案④チーム・アプローチの観点を取り入れた理学療法プログラム実施計画の立案⑤問題点に対する理学療法プログラムの選択とその根拠の説明⑥選択した理学療法プログラムのリスク対応⑦選択した理学療法プログラムに関するオリエンテーションの実施⑧選択した理学療法プログラムの実施⑨理学療法プログラム実施後の再評価 【知識面】以下のことが説明できることとする。 ①情報収集、検査・測定結果から抽出された問題点の原因の考察②問題点の原因と経過を勘案した短期目標の立案の手順と考え方③問題点の原因と経過を勘案した中・長期目標の立案の手順と考え方④問題点の原因に対する理学療法実施計画立案の手順と考え方⑤問題点に対する理学療法プログラムの根拠と実施手順⑥選択した理学療法プログラムのリスクと原因ならびに対処方法⑦理学療法プログラムに関するオリエンテーションと手順⑧理学療法プログラム実施後の再評価の意義 【記録・報告】以下のことができるようになることとする。 ①経験したことについて、専門用語を用いた簡潔な記録②経験したことにおける「結果と考察」について、専門用語を用いた明瞭かつ論理的な記録③経験したことにおける「臨床実習指導者から受けた指導や助言」、「自身の解釈と疑問点」ならびに「学習したこと」について、専門用語を用いた明瞭かつ論理的な記録 ④記録した内容について、口頭あるいは文書による報告	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	総合分野	総合理学療法学	M-CRG401	400	4秋	講義	2	基礎分野では解剖・生理学として学んだ科目を、身体の機能と構造という観点から理学療法対象者を例に統合的に理解させ、専門分野では対象者(疾患)の例をいくつか挙げ、それらの問題点を明確にし、治療方法を立案するために臨床医学的な知識と理学療法に関する総合的な知識を改めて復習し理解を深めるために各分野について統合的に講義を行う。	4 年次までに習得した基礎知識ならびに専門知識を統合して理学療法の理解を深め、卒後の理学療法業務に結びつけることを目標とする。	◎	◎	◎	◎	○	◎
		理学療法学研究法	M-CRG301	300	3秋	講義	1	本講義では理学療法における研究の現状を概観するとともに、「理学療法学研究実践法」を見据えて、研究計画の立案および研究を進める上で必要となる基礎的知識、医療統計、エビデンス(根拠)に基づく理学療法、研究倫理、研究方法について学ぶ。また、関連領域の研究論文を精読することを通して、科学的な態度を身につけることを目標とする。	①理学療法における研究の重要性について理解し説明できる。 ②研究デザインについて理解し説明できる。 ③統計手法について理解し説明できる。 ④文献の収集と読解ができる。 ⑤発表の方法について説明できる。 ⑥論文の構成・書き方について説明できる。	◎	○	◎	○	◎	◎
		理学療法学研究実践法	M-CRG402	400	4通	実習・実験	2	研究目的とその対象に応じて仮説を立て、種々の調査・測定や実験を行い、その結果を整理して得た検証の成果を考察する。研究成果を口頭で発表し、論文・レポートにまとめることで、発表技術と科学的論文の作成方法を修得する。	①研究目的とその対象に応じて仮説を立て、種々の調査・測定や実験を行い、その結果を整理して得た検証の成果を考察する。 ②研究成果を口頭で発表し、論文にまとめる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎